

【記事の大まかな内容】

戦時中に敵国同士であった日本とフィリピンの関係が戦後良好に改善されていった要因を分析した記事です。私はその要因を、アジア太平洋地域をめぐる安全保障以外の要因から説明しました。

【増古のインタビュー記事が掲載されている英文記事の抜粋】

Takehisa Masuko, who previously taught the history of Japan-Southeast Asia relations at Ateneo de Manila University, collaborated with the Filipinas Heritage Library to translate wartime Japanese books.

While understanding wartime perspectives is vital for reconciliation, Masuko notes that moder factors – beyond security-have reshaped Japan’s regional image. Development aid, Japanese technology and a boom in cultural exports-from appliances to anime-have drawn the nations, and their governments closer.

“As the Philippine economy improves and the yen weaken, more and more Filipinos are coming to Japan,” says Masuko, who is currently director of the Japanese language course at Heise International University. “I hope the Philippines and Japan will have an economic, cultural and social alliance, although a military alliance would be fine.”

【該当部分の日本語訳】

アテネオ・デ・マニラ大学で日本・東南アジア関係史を教えていた増古剛久氏は、フィリピン文化遺産図書館と協力して戦時中の日本の書籍を翻訳した。

戦時中の視点を理解することはフィリピンと日本の和解のために不可欠だが、増古氏は安全保障の問題だけに留まらないより大きな要因が日本の地域イメージを変えてきたと指摘する。フィリピンに対する政府開発援助、日本の技術、電化製品からアニメに至るまで文化輸出のブームが、両国と両国政府の距離を縮めている。

「フィリピンの経済が良くなり、円安が進むにつれて、ますます多くのフィリピン人が日本に来ています」と、現在平成国際大学日本語別科の別科長を務める増古氏は言う。「軍事同盟でもいいのですが、フィリピンと日本が経済的、文化的、社会的同盟を結ぶことを願っています」。

【出典情報】

出典：the Japan Times Weekend Saturday-Sunday, March 22-23, 2025

記事タイトル：‘Eighty years after battle, old foes forge new ties’より抜粋

掲載日：2025年3月22日

*本記事全体は有料サイトでしか閲覧できませんので、大学ホームページの掲載分においてはジャパントイムズ紙著作権管理業務の担当者からの指示を仰いで掲載しております。